

# 那加第一小学校のできたころ

～市内の小学校はどのように作られていったのでしょうか～

明治5年(1872年)8月に文部省から発布された「学制」によって、各地域に現在でいう小学校を建てることになりました。翌明治6年(1873年)各務原市内に6校の学校が誕生しました。現在のように、小学校は絶対に入学させなければならない義務教育ではなく、授業料も必要でした。

このころは、現在と違って、授業料が必要であることが各家庭の負担になったり、子どもが各家庭の農作業の手伝いをしていたので、子どもを学校へ通わせるのは各家庭での大きな負担になっていました。そのために、教育を受けさせると言うことを各家庭に理解させるのは大変なことだったそうです。

表1 明治6年(1873年)に市内で創設された小学校(尋常小学校)

名称	所在地	設立日	教員数	児童数		(銭)授業料金
				男	女	
不 惕	前 渡 村	明治6年2月15日	3	51	1	0
三 省	各 務 村	明治6年3月7日	3	90	15	8.8
和 親	伊 吹 村	明治6年3月9日	3	87	12	0.3
新 々	鵜 沼 村	明治6年5月9日	3	127	25	0.5
<b>洗 心</b>	<b>長 塚 村</b>	<b>明治6年12月23日</b>	4	90	15	0
敬 恪	下中屋 村	明治6年5月30日	3	301	9	0

明治13年(1880年)には、さらに学校数は増え、市内の学校は表2のようになりました。

その後、明治19年(1886年)になって文部省は「小学校令」といって、すべての家庭にいる子どもは学校で勉強させなければならないという命令を出したのです。そこには次のように書かれています。

「父母後見人等ハ、其学齡児童ヲシテ、普通教育ヲ得セシムル義務アルモノトス」

(「保護者は、学校に入学する年齢になった子どもに普通教育を受けさせる義務があります」という意味)

また、義務教育である尋常小学校を3年～4年、その上の学校で



↑ 明治34年那加尋常高等小学校卒業写真

ある高等小学校（この学校は義務ではなかった）を2年～4年と地域の様子に合わせて幅を持たせていました。

**表2 明治13年の市内の小学校と通学児童数**

学 校 名	所 在 地	児 童 数
不悌学校	前 渡 村	前渡村（60人） 下切村（13人） 山脇村（15人）
長塚学校	長 塚 村	長塚村（50人）
洗心学校	西 市 場 村	山後村（20人） 岩地村（8人） 桐野村（25人） 西市場村（30人）
前野学校	前 洞 村	前洞村（40人）
鵜沼学校	鵜 沼 村	鵜沼村（不明）
各務学校	各 務 村	各務村（62人）
須衛学校	須 衛 村	須衛村（47人）
和親学校	古 市 場 村	持田村（11人） 伊吹・飛鳥村（95人） 大宮（大島・宮代）村（34人）和合村（75人） 古市場村（138人）

小学校が義務制度になって、明治30年には岐阜県内の町村の合併が行われました。それに伴って、市内の小学校は表3のようになりました。

**表3 明治30年に統合された後の小学校**

村 名	学 校 名
那 加 村	那加尋常・高等小学校
更 木 村	更木尋常小学校
前 宮 村	前宮尋常小学校
鵜 沼 村	鵜沼尋常・高等小学校 三ツ池尋常小学校
各 務 村	各務尋常小学校
蘇 原 村	蘇原尋常・高等小学校

注：高等小学校のない地域は、希望によって、近くの高等小学校へ行くことになっていました。